

通学路の安全確保へ

藤代紫水高

通学路の安全確保に向けて、県立藤代紫水高校（取手市紫水、井上正治校長）は危険箇所の見直しを進めている。

全生徒が参加する学校家庭クラブ活動で提案され、地域の人たちの意見を取り入れて危険箇所を明記した新たな通学路マップを作成する。先月には同市青少年相談員らを迎えて検討会を開き、現地調査も行った。

同校は学校家庭クラブ活動に力を入れ、学校生活の中から課題を見つけ改善につなげ

危険箇所を現地調査

る活動を生徒主体で行っている。全校生徒の半数以上が自転車通学している現状と、7月に同校生の交通事故が相次いだことを受け、通学路の再検討を提案した。

検討会は8月25日に開催。

同クラブ本部役員、地区の安全パトロールをしている青少年相談員、市職員ら20人が参加した。生徒たちが通学路の現状や危険箇所について説明し、青少年相談員らが意見を述べた。特に注意が必要な2カ所が取り上げられ、31日には生徒5人と青少年相談員らが現地調査した。

危険箇所の一つ、同市上萱

地域と協力、マップ作成

場の県道合田部藤代線の通学路では、車の交通量が多い上、ガードレール内の歩道が狭く、特に小中学生の登下校時

と重なる時は自転車通学の危険が増すことなど、現状を確認した。

クラブ会長を務める齋藤祐

太さん(16)は

「地域の人の力を借り、皆が安心して通学できるようにしていきたい」と話した。今後、通学路マップを改訂して全校生徒に周知を徹底する予定だ。

(黒羽根勝弘)



通学路の危険箇所を調査する藤代紫水高の生徒たち。取手市上萱場